

私は母校である高等学校で教育実習を行いました。情報科の担当は自分一人で、全体の実習生は 12 人でした。初日から最終日まで、多くの貴重な経験を積むことができました。

最初に印象的だったのは、校門前での挨拶運動です。毎朝、生徒たちに「おはようございます」と挨拶することで、多くの生徒が挨拶を返してくれました。簡単なコミュニケーションを通じて顔見知りになることで、授業での関わりもスムーズになりました。こうした日常の小さな交流が、授業の進行に大きな助けとなることを実感しました。

授業は合計 10 回担当しました。その中でも特に印象に残っているのは、情報デザインの授業です。指導教員が事前に作成した教材を使って授業を行うことになり、初めての経験だったため非常に緊張しました。ピクトグラムを扱い、情報デザインの事例や意味を教える授業は予定通りに進めることができず、生徒の様子を観察する余裕もなく終わってしまいました。授業後、指導教員から「教材を自分のものにできていない」と指摘され、多数の教員が共通して同じ教材を使うことがあるため、そのような状況でも対応できる力が求められていると痛感しました。

情報セキュリティのポスターを作成する授業も担当しました。この授業では、授業で扱うソフトや制作手順の説明を授業の冒頭で行い、その後は生徒の制作をサポートしました。大学で団体やゼミの活動でグラフィック製作を行っていたので、生徒に詳細に教えることができ、大学で培った技能を伝えることができ、とても嬉しかったです。ただ、高校 2 年生の PC 操作が想像以上に拙かったり、自分が当たり前のように理解している構造が理解できていなかったりと、ICT 環境を整えているにしても、本質的に理解できている生徒はあまりいないのかと思いました。

自分でオリジナルの授業をすることになっていたため、「メディアリテラシー」について授業を行いました。指導教員を含めた情報科教員のお二人からアドバイスを受けながら、学習指導案と教材を作成しました。教材作りにおいては、視認性や授業内の話の繋がり、生徒に見せる情報量、授業で見せるスライドと生徒が自由に取り組む配布用のスライドの違いなど、新たな発見が多々ありました。50 分以内にメディアリテラシーの定義から生成 AI を使った事例まで内容をまとめることは難しかったですが、授業のふりかえりで生徒にわかりやすいと言ってもらえる教材を作成することができました。このオリジナルの授業は 3 回行い、最終回は研究授業となりました。授業を重ねるごとに、全体の流れを掴みやすくなり、話す内容を端的にまとめ、少しずつ抑揚をつけて話すことができるようになりました。また、生徒の回答に対して適切に返答し、話を広げることもできるようになり、自信を持って授業を進めることができるようになりました。

研究授業に対する先生方からのフィードバックでは、「もっと明るく、声量をもって話さないと授業を聞いてもらえない」という指摘を受けました。生徒が自分の前にあるモニターを見ているため、その様子を観察しながら授業の進行状況を判断することも求められました。また、メディアリテラシーを学び、世の中に対応できるようになったその先の何か具体的なゴールを提示してあげたほうが良かったという意見ももらいました。

ホームルームでは、2 年生のクラスを担当させていただきました。朝の連絡や終礼の挨拶、ロングホームルームでの文化祭準備の見守りや引率を行いました。文化祭の準備を手伝うことで、生徒たちとより深く関わることができました。探求の授業では、各班が考えたテーマについて深く掘り下げるゼミ形式の活動を行っており、困っている班にはアドバイスを行いました。クラスの生徒と一緒に文化祭で使う道具を作ったり、掃除を一緒に行ったり、授業を一度だけ担当クラスにしたりと交流をしたことで、最終的には学園祭用のクラス T シャツをプレゼントしてもらい、みんなで写真を撮るぐらいには仲良くなれました。

授業の見学も行いました。私が取得する免許は情報科と公民科ですが、見学した授業は公民科に限らず、地理や世界史などの社会科全般にわたりました。それぞれの教員による授業スタイルの違いがとても興味深かったです。例えば、スライドの使い方ひとつをとっても、情報の提示方法や視覚的な工夫が異なり、生徒の関心を引きつける工夫が随所に見られました。また、プリントの構成や質問の仕方も教員によって多様で、生徒が積極的に参加できるような環境作りが行われていることが印象的でした。社会科以外にも、数学科と情報科の授業も見学しました。同じ単元を扱っていても教員の伝え方によって生徒の理解度や関心の持ち方に大きな差が出ることを実感しました。例えば、数学の授業では、教員の説明の仕方や問題の解き方の指導方法が異なると、生徒の定着度や理解の深さに違いが見られました。情報科の授業でも、ソフトウェアの操作方法を教える際に、具体的な例を用いた説明や簡単な実践的な課題を取り入れることで、生徒の興味を引き出す工夫が効果的であることを学びました。この見学を通して、効果的な授業を行うためには、単に知識を伝えるだけでなく、生徒の興味を引き出し、理解を深めるための工夫が必要であることを再確認しました。

放課後は、部活動を運動部、文化部関係なく見学し、その日の授業の振り返りを指導教員と一緒に行いました。また、在校生向けのセミナーを開催し、教育実習生全員で大学生活や大学での学び、進路の決め方などの話をしました。情報系の進路の相談を受けることがありましたが、情報学が扱う分野がとても広いあまり、説明が難しかったです。18:00には全日制から定時制への切り替えのために校門前で帰宅を促す挨拶運動を行いました。生徒の下校を促しつつ、校門外の一般の方への配慮もしながらの挨拶は学ぶことが多々ありました。

総じて、教育実習は非常に充実した経験でした。生徒たちと直接関わり、成長をサポートする喜びを感じました。またその一方で、教員としての責任の重さや、常に自己研鑽を続ける必要性も痛感しました。今回の実習で得た経験と反省を糧に、これからも教員として、社会人として成長し続けたいと思います。教育現場で働く方の苦労を実感しつつ、生徒との交流から生まれるやりがいも感じられたので、教職について多角的に理解できたとても意味のある経験になったと強く思います。